

このコーナーでは、この地域に伝わる民話を紹介し、皆さんからの感想画を募集しています。紹介する民話は、子どもたちに、ふるさとの伝説や昔話を教え、遠い祖先の心や、郷里のぬくもりを少しでも感じてほしいと、松浦市教育委員会が平成4年に再編した「松浦の民話」という本から引用した話です。

山代栄は、陣屋のまくが風に激しくはためく音で目をさました。

郎党どもはもう起きていて、あわただしく走り回っています。旗指物がふきたおされ、手おけやしよぎなごが音を立てて転がっています。しばらくすると、雨が激しくたたきつけてきました。↓

松浦の民話⑱

げんこう

元寇

— 神風がふく —

この激しいあらし、雨の音にまじって、まっ暗やみの中から聞こえてくるのは、周りの陣屋からのさけび声と、物と物がぶつかり合う音ばかりでした。

ようやく、あたりが白み始めてきました。相変わらず風は激しくふきつゆり、雨は時おり、たたきつけるように降ってきます。雲は矢のような速さで、北から南へと流れていきます。と、思いがけない光景が栄の目に飛び込んできました。目の下の海は真っ白にわきかえり数せきの元の大きな船が、木の葉のようにもまれ

「飛ばされないように、しっかりとおさえておけ。軽いものは、みんなまとめてくっつけておけ。」

栄は、たたきつけるように降ってくる雨でずぶぬれになりながら、郎党たちに声をかけました。風はますます激しさをまし、とうとうまくをひきちぎってしまいました。↑

ています。この海をうめつくしている船団はどこへ行ったのでしょうか。ずいぶん数が少なくなっています。「おっ、船がまっ二つにさけたぞ。」「あれを見ろ、こちらへふきよせられて来る。今に岸にたたきつけられるぞ。」

船がさける音も、元の兵士たちの悲鳴も、この山の上にはまでは聞こえてきません。栄たちは、大自然のいかにほんろうされる、元の船団の最後の姿を、立ち木にすがりながら、ただ見入るばかりでした。お昼近くになって、風向きが西に回りました。

元の船は、今福の浜の方へふきよせられていきます。

しばらくすると、風がぴたりと止み、雲の切れ間に青空がのぞくようになりました。見ていると、転ぶくをまぬがれた元の船では、動きがあらわだしくなってきました。修理をして逃げ出そうとしているのです。

「それ、今だ、早く船を出せ。」

とばかり、こわれてただよっている元の船や、鷹島へうちあげられた数千の兵士たちにせめかかりました。戦いは一方的で、日本軍の大勝利に終わりました。

この大暴風雨に助けられた鷹島沖の戦いで、元軍は全滅し、またと再び日本をせめてくることはありませんでした。

そこで当時の人々は、この時の暴風雨を、神がふかせて日本を守ってくれた「神風」だ、と言うようになりました。

星鹿半島に上陸した元の兵士は、ほとんど死んでしまいました。七百年前の、このはげしい戦いのありさまを、今に血田（知田）、血崎（津崎）、逃げの浦、金蔵などの地名にしるすことができます。

戦死者をほうむった千人塚があるのも、そのためです。また、千人塚

は、志佐町の恵比須崎にもあって、いずれも花をそなえ、供養塔や五輪塔を建てて当時をしのび、今でも多くの人がお参りしています。

(星鹿町)



中世の松浦 (35) 鷹島海底遺跡

椀は船舶の建造地あるいは母港で積み込まれたと考えるのが普通であり、40号級の大型船においては、当時の先端技術の結集であり、どこでも建造できるとは考えられません。碇石の産地を特定することができれば船舶の建造地あるいは母港を推定する鍵となります。

平成6年度の発掘調査で出土した碇石11検体の岩石薄片による顕微鏡観察が行われました。その結果、凝灰質砂岩2点、花崗岩6点、石灰岩1点、石英斑岩2点に識別されました。

これにより最も多量に出土した花崗岩が九州北部に分布する花崗岩とは異なるものであることが判明しました。1・3・5・6・8号碇石が花崗岩製であることから、この花崗岩の性状と産地を明らかにするため化学組成の分析と年代測定を行いました。その結果、全ての碇石は約1億1千万年前のアルカリ長石花崗岩で、極めて類似した組織と化学組成をしていることがわかりました。この分析結果から碇石に使用された花崗岩は同じ産地から切り出されたと推定されます。また、同じ形成年代と化学組成を持つ花崗岩の産地は中国福建省泉州付近であることも明らかになりました。

この碇石の分析により神崎港沖で難破した40号級の大型船を含む元軍戦艦の相当数が泉州で建造された可能性が高くなり、沈んでいる船は江南軍の可能性がります。



▲分析された6号碇の碇石

松浦の民話イラスト

読者の皆さんから寄せられたイラストの審査結果を以下の通りお知らせします。

先月の民話「元寇—弘安の役—」のイラストに、10通の応募がありました。ご応募ありがとうございました。



【最優秀賞】  
山下哲平君  
(星鹿・下田、8)

「日本側の兵士と巨大な元の船団との戦いが色鮮やかに描かれています。手に持つ武器にも違いがあり、陸対海の戦いを細かに表現してあります。戦いの激しさもよく伝わってきますね。」(い)



【優秀賞】  
池淵風華ちゃん  
(星鹿・下田、7)

「今にも襲い掛かってきそうな元軍の様子がよく表現されています。元軍の勢いを象徴するかのような中央の大きな軍船が印象的です。」(い)

■あなたの力作を募集！ — 民話の感想画募集 —

右の民話を読んで感じた情景をイラストにして、必要事項を記入の上左記まで持参、郵送またはメールにて送付してください。応募いただいたイラストは審査をし、上位のものを次の市報で紹介いたします。

【応募資格】住所、年齢、性別など何も問いません。ごなたでも応募できます。

【イラストの規格】はがきまたはA4サイズ以内の紙に絵の具やクレパスなどで書いたカラーのもの(色鉛筆の場合は濃く塗ってください)。

【必要事項】住所、氏名(ふりがな)、電話番号、年齢、職業(学校名)

※掲載する場合、ペンネームを希望する人は、ペンネームもご記入ください。

※はがきで応募される人は、必要事項を表の下部に記載してください。

なお、いただいた個人情報(民話コーナー以外には使用しません)。

【応募締切】10月11日(火)必着

【応募・問合せ先】

〒859-4598 松浦市志佐町里免365番地

松浦市まちづくり推進課 秘書広報係

☎095672-1111 Eメール=hisyo@city.matsura.lg.jp

※福島支所、鷹島支所、そのほかの各支所でも受け付けています。